



煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集 * 渡部信二
Tel. 046-223-0110

県民生活を脅かす生活経済事犯対策の推進

～悪質商法の主な態様～

「生活経済事犯」とは、高齢者等の社会的弱者に多大なる被害をもたらす「悪質商法事犯」、過激な取立てにより平穏な日常生活を破壊する「ヤミ金事犯」、家庭の食卓を脅かす「食の安全事犯」、人の健康に取り入る「健康衛生事犯」、後の世代に引き継ぐべき生活環境を破壊する「環境事犯」等、県民の日常生活における安全と安心に大きな脅威を与える事犯のことを言います。

県警では、生活安全部内に「生活経済課」という専門的な部署を設けて、生活経済事犯に対する取締りを推進しています。

政府では、毎年5月を「消費者月間」と定めて、様々な消費者問題に対する事業を集中的に実施することとしており、県警においても、この月間に合わせて、消費者被害に係る生活経済事犯の取締りを強化するとともに、消費者被害の未然防止のための広報啓発活動を推進することとしています。

～悪質商法の被害に遭わないためのポイント～

- ① **うまい話を信用しない！**
うまい話、絶対もうかる話には、必ず大きな落とし穴・・・
- ② **そうだんする！**
ひとりで判断せず、家族・知人・相談機関に相談を
- ③ **つられて返事しない！すぐ契約しない！**
悪質業者は、言葉巧みに契約を迫ってきます。
- ④ **きっぱり！はっきり！断る！**
あいまいな返事をせず、キッパリ！ハッキリ！断る！

自転車マナーアップ対策の推進

～自転車も のれば車の なかまいる～

一 5月9日(日)は、神奈川県交通安全対策協議会主催による、「一九都県市一斉自転車マナーアップ強化月間」が実施されます。

二 指導取締り、交通安全教育及び広報啓発活動の交通違反に対する徹底を図ります。

三 スローガン「のれば車のなかまいる」

四 重点車種として、自転車利用者の交通違反の増加傾向にある「ヘルメット着用」の徹底を図ります。

五 ① 自転車点検整備と損害賠償保険加入の促進
② 自転車点検整備と損害賠償保険加入の促進
③ 県警では、次のことに重点を置いて活動を推進します。
④ 基本的な交通ルール(※)について周知徹底します。自転車通行方法等に関する講習(※)の対象となる信号無視、しゃ断踏み切り立ち入り、指定場所一時不停止をはじめとする、危険性、迷惑性の高い違反に対する指導取締りを強化します。
⑤ 自習による交通安全講習「チリリン・スクール」を開催し、座学と実技による交通安全講習「チリリン・スクール」の周知を図ります。講習の受講証「チリリン」の配布により自転車の点検整備を促進します。

⑥ 五月九日(日)は、県内の警察署が一斉に自転車の点検整備を行います。自転車の点検整備と安全利用の重要性について街頭点検を行います。幼児や児童に対するヘルメットの着用努力義務について周知を図るとともに、大人に対してもヘルメット着用を呼びかけます。

⑦ 自乗車事故の高額賠償請求事例を紹介するなどして、損害賠償保険の加入検討を呼びかけます。

⑧ 地域関係機関に交通安全事故分析資料等を積極的に提供するなどして、自乗車安全利用を推進します。

⑨ 自転車安全利用五則、歩道は例外

⑩ 歩道は左側を通行、車道寄りを行行

⑪ 安全ルールを守る

⑫ 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止

⑬ 夜間はライトを点灯

⑭ 交差点での信号遵守

⑮ 子供はヘルメット着用

⑯ 平成二十七年六月一日から自転車運転者が、酒酔い運転や信号無視による交通の危険を防止するための講習「の受講が命じられます」

事件記録板

3月中の事件は、

- ◎ 咬傷事件の発生
3月6日に猟犬か?犬種等、現在捜査中ですが、舟沢地区で小学校1年生の女の子が咬まれるという事件が発生しました。幸い軽傷であったのですが、二度と同様な事件を発生させないよう、村役場と猟友会と厚木警察と協議を複数回しました。今後、保安員が巡回し、舟沢付近での狩猟も当面の間、中止する取り決めを致しました。但し、厚木、清川以外の個人等も入山する場合がありますので発見した場合は110番通報して下さい。また犬と遭遇した場合は、からかったり走ったり逃げたりすると追って来る場合があるようなので無用に刺激をしないようにしましょう。
- ◎ 空巣事件の発生
3月24日に谷太郎地区で室内から現金が盗まれるという事件が発生しました。今後、戸締りをしっかりして、浅く探しても見つかるような場所に現金等を置かないようにしましょう。また不審者を発見した場合は110番通報にご協力願います。

駐在所の独り言

～家族、夫婦の絆を大切に!!～

先月、防犯警戒中に「この本面白いから読んでみないですか?」と勧められた小説があります。その題名は、「その時までサヨナラ」です。作者は、「リアル鬼ごっこ」で有名な山田悠介さんの2008年の作品です。映画化もされたようなので、もしかしたらご存知の方もいるのかもしれませんが、私は、初めてで、約5時間で一気に読みました。夜間もパトロールに出て、深夜から早朝近くまで読んでいましたから、当日の交通監視が少々眠かったですね。でもこの本を読んで、何度か目頭が熱くなる感動がありました。内容は・・・複雑な人間が多角関係、更に複雑な展開があるので、あらずじけでも紙面にはまとめるのは、難しいですね。短くすれば情景が伝わらないと感じました。殆ど端を折る(はしよる)内容ですが、仕事人間で、妻も子供にも無関心な夫は妻に愛想尽かされて、妻は子供と一緒に実家に帰ります。ある日、妻と別居中の夫のもとに1本の電話があり、妻が乗っていた福島行きの列車が地震で脱線事故を起こし、亡くなったという話を聞く事から始まります。当然仕事人間の男に残された子供の子育てが簡単には出来るとは思いません。子供との会話も出来ず、接する事すら全く知らないからどうにもならない。そんな時、妻の親友と名乗る女性が現れ、2人の暮らしを手助けを始める。(何故か最初からこの女性に子供が懐いている。後からすれば仮の姿は他人でも心は母親なんで当然なんです)仕事人間で頑なでも子供が女性に味方にしたものだから、次第にふて腐れながらも、抵抗出来ず女性の言いなりにならざるを得ない状況に。女性は父親と子供との暮らしをさせ、父親をひとり立ちさせるために限られた時間の中で積極的に夫に家事、洗濯、掃除を教える。そんな中、父と子供が次第に心を通わせていきます。そこでどんでん返りです。夫は、この女性の身体を借りてしまった妻の心だけが乗り移っていた事を知ります。でもその時既に遅く、夫が女性を妻とは知らず家から追い出していますから・・・会いたくて。夫は、容姿は違っても死んだ妻に会えるならと嬉しくて探しに出ます。最後に家族3人で想いを語り合うのですが、やはりハッピーには当然終わりませぬ。妻は、亡くなって、ただ他人の身体を借りているだけですから、想いを伝えたと天国に行きます。とても切ない物語に吸い込まれるような内容でした。今後、家族として夫婦として大切な人をもっと大切に、改めて家族として夫婦として考え直す事を教えてくださいました。内容は、はしょりますから、もっと多く感動する場面もありますから是非読んでみては如何でしょうか? この紙面をもって小説を提供して頂いた方に感謝を申し上げます。